

# 指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和6年度分）

<県の評価等>

施設所管部名：環境生活部

## 1 指定管理者の概要等

施設の名称および所在	みえ県民交流センター（津市羽所町 700 番地 アスト津 3 階）
指定管理者の名称等	みえ県民交流センター運営委員会 代表者 特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター 代表理事 松井真理子 （四日市市諏訪栄町 3 番 4 号 特定非営利活動法人市民社会研究所内）
指定の期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 施設等の利用に関する業務 2 市民活動促進及び国際化の推進のための業務 3 市民活動・国際化推進に関する情報の受発信に関する業務 4 中間支援団体等の機能向上・連携交流に関する業務 5 「みえ災害ボランティア支援センター」運営に関する業務 6 災害支援団体等との連携による受援力の強化業務 7 企業等との協働の推進に係る業務 8 施設の維持管理に関する業務 9 その他施設の管理運営上必要と認める業務

## 2 施設設置者としての県の評価 ※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R5	R6	R5	R6	
1 管理業務の実施状況	A	A			県民の皆さんが市民活動について考え、取り組むきっかけづくり、中間支援団体等の支援、国際交流・多文化共生といったニーズや時流に沿ったセミナーやイベントの実施など、地域の市民活動や国際交流の拠点としての役割を的確に果たした。 「みえ災害ボランティア支援センター（MVSC）」の運営においては、能登半島地震への対応として、活動報告会を開催し県民の被災地支援を促進するとともに、県内NPOと被災地で活動するNPOのマッチングを行うなど、MVSCの運営に積極的に携わった。
2 施設の利用状況	B	B			利用団体数は 2,515 団体と令和 5 年度（2,509 団体）より増加している。また、センター来館者数は 39,793 人と目標数値（63,000 人）には至っていないものの、令和 5 年度（34,394 人）に比べ増加した。また、センター内の案内板を新設したほか、新着図書のコナーを新たに設置するなど、利用しやすい環境づくりやサービスの向上に努めた。
3 成果目標およびその実績	B	B			成果目標の 6 項目のうち「センター来館者数」を除く 5 項目で目標を達成した。 また、指定管理者の成果目標のうち「教育機関での市民教育の実施件数」については、目標値 3 件のところ 5 件実施し、次世代を対象とした市民活動の推進に積極的に取り組んだ。

※「評価の項目」の県の評価：  
 「+」（プラス） → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。  
 「-」（マイナス） → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。  
 「 」 （空白） → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価

(1) 成果目標に対する達成度

- ・センター来館者数は 39,793 人と目標数値 (63,000 人) には至っていないものの、令和 5 年度 (34,394 人) に比べ増加した。
- ・「オンラインを活用した NPO の割合」は、84.4%と目標 (80%) を上回った。
- ・「事業参加者の満足度」も 87.9%と目標 (85%) を達成した。
- ・「県民応援 NPO プロジェクト」では、団体の事業の発展・強化に向けて、「東海ろうきん未来応援寄附金」からの資金を 3 団体に提供するとともに、伴走支援を実施し、目標 (3 団体) を達成した。
- ・「企業と NPO のマッチング」は、県内の企業と NPO が相互の活動への理解と連携を進められるよう、SDGs に取り組む企業 5 社取材してマッチングサイトに掲載するとともに、セミナーを開催し、目標 (5 件) を達成した。
- ・「教育機関での市民教育の実施件数」は、子どもや若者の市民活動への関心を向上させることを目的に、小学生を対象とした講座を 5 件実施し、目標 (3 件) を達成した。

(2) 残されている課題

- ・人口減少・少子高齢化など社会環境の変化により多様化、複雑化する社会課題への対応が求められる中で、NPO 等の活動について企業や県民の皆さんへの認知度を高め、多様な主体とつながりを持って活動できるよう、支援していく必要がある。
- ・今後も引き続き、対面とオンラインをうまく組み合わせてセミナー等を開催するなど、利用者ニーズに対応していく必要がある。
- ・来館者数の増加に向け、センターの利用実態を分析するとともに、センターのより一層の周知や来館者の利便性の向上に取り組む必要がある。
- ・施設や備品の老朽化に伴う故障等が増加していることから、更新や修繕をしていく必要がある。
- ・専門スキルを持つスタッフを確保、育成していく必要がある。

(3) 翌年度に取り組むべき成果目標の設定

- ・センター来館者数の増加に向けて、外部委員会や利用者等の意見を参考に、利用しやすい環境づくりやサービスの向上に取り組む必要がある。

(4) その他

(施設の適正な維持管理の実施)

- ・救急救命研修や県図上訓練に参加した。また、利用者が安全・安心、快適に利用できるよう施設や備品の適切な管理・維持に努めた。施設内の人目につきにくい場所 (トイレ、給湯室等) を定期的に巡回し、安全衛生管理に努めている。

(県民サービス向上の成果)

- ・ホームページやウェブマガジン、SNS による情報発信、および「NPO グレードアップセミナー」等の講座を通じ、県民の市民活動への参画を促進するとともに、市民活動団体の運営基盤の強化を図っている。
- ・外部からの意見をを得るために、外部委員会や利用者アンケート等を実施し、魅力ある事業内容をめざした企画運営やセンター内の展示等の充実に取り組んでいる。

(「みえ災害ボランティア支援センター (MVSC)」の運営に関する業務)

- ・能登半島地震により設置された MVSC に参画し、被災地支援を行う県内 NPO 等との情報共有会を開催し、被災地支援に関して意見交換を行うとともに、災害支援団体等との連携強化に努めた。
- ・被災地で活動する NPO と三重県内の NPO・個人の方をつなぐボラマッチ事業を実施し、被災地支援活動を行った。

以上のことから、みえ県民交流センターの指定管理者として、設置趣旨や県域の市民活動センターとしての役割を十分認識した効果的な管理運営を行っていると評価できる。今後も魅力ある事業内容をめざした企画運営や展示等を充実させるとともに、指定管理者が持つ知見やネットワーク等を十分に活かした市民活動の強化促進、国際化と多文化共生の推進に向け、県民のニーズに応じた必要かつ魅力的な取組に期待する。

## <指定管理者の評価・報告書（令和6年度分）>

指定管理者の名称：みえ県民交流センター運営委員会

### 1 管理業務の実施状況および利用状況

#### (1) 管理業務の実施状況

##### ① センター管理運営事業の実施に関する業務

###### ア 管理運営

- ・みえ県民交流センターの総合案内の役割を担い、NPOや広く県民の皆さんを対象に、市民活動や国際交流・多文化共生の推進を目的としたセミナーやイベントを実施した。
- ・利用者のセンター内Wi-Fi環境へのニーズも高く、センターでのオンラインによる会議の利用が増加している。
- ・県民のNPOへの関心や市民活動への参加を促すため、ホームページやWEBマガジンにてセンターの利用案内や事業情報、また、市民活動やボランティアに関する情報を発信した。また、SNSも活用して、積極的に情報発信に取り組んだ。
- ・4名の外部委員による外部委員会の開催（2回）、施設の利用者や施設のオンライン環境についてのアンケートの実施により得られた意見や助言等をふまえ、施設管理や業務改善を行った。
- ・センターの利用件数は、交流スペース（A）とミーティングルーム合計で796件と令和5年度（733件）より増加した。

###### イ 講座・研修の実施

- ・「NPOグレードアップセミナー」の目的を「NPOの今までと未来～これからのNPOマネジメントを学ぶ」と題して、NPOの歴史や現状、課題を明らかにし、現代社会でNPOが担うべき役割と組織のあり方を学んだ。
- ・「協創シンポジウム」として、NPO交流会を開催し、県内のNPO35団体が参加した。NPOの交流の機会になるとともに、それぞれのNPOが抱えている課題を明らかにし、その解決策について話し合った。
- ・「多文化共生深掘り講座」は2回開催し、1回目は「被災地に暮らす外国人と支えあうために…」と題し、能登半島地震で被災した外国人住民の支援を行ったNPOを講師に、災害時の外国人支援について学んだ。2回目は、「どこの国の人もみんな一緒に『おしゃべりPARTY』」と題して、三重県で暮らす外国人の方に参加いただき、各国の文化や食の紹介など楽しく気軽に交流できる場とした。
- ・「グローバル市民講座」として、「平和」をテーマに国際情勢や国際NGOの取組を学び、この状況を「わたしごと」にし、どのような行動ができるかを考えあうセミナーを実施した。
- ・WEBマガジン「R/LEADER plus」を年7回発行した。

###### ウ 「みえ災害ボランティア支援センター（MVSC）」運営に関する業務

- ・MVSCの幹事団体として、県の図上訓練や月1回の幹事会に参加した。
- ・能登半島地震により設置されたMVSCでは、みえ災害ボランティア団体バンクの登録団体の管理や情報提供、マッチングを行った。また、三重県内の情報共有会を開催し、現地の状況や三重県からの支援状況を共有し、県民の被災地支援活動を促した。
- ・ボラマッチ事業を計3回実施し、県内NPO・個人の被災地支援活動を促進するとともに、現地で活動するNPOと連携を深めることができた。

##### ② 施設および設備の維持管理および修繕に関する業務

- ・利用者の安全・安心の確保を第一に、快適にセンターを利用できるよう施設や備品の適切な管理および維持に努めた。とりわけ、人目につきにくい場所の安全衛生対策や不具合のある備品の修繕や入れ替えを行った。
- ・利用者の要望に対応し、より利用しやすい施設となるよう改善に努めた。その一環として、新たに案内板を設置するなど、施設の利便性の向上に努めた。
- ・引き続き照明や空調の省エネルギー対策を実施した。

##### ③ 県施策への配慮に関する業務

- ・県総合計画やダイバーシティみえ推進方針などの施策について県と意見を交わして事業を立案し、実施した。
- ・みえ県民交流センター条例を遵守し、みえパートナーシップ宣言、三重県多文化共生推進計画をふまえて事業を実施するとともに、職員の働き方改革などにも取り組んだ。
- ・三重県の環境基準に基づき、節電、リサイクル、再生紙の利用など環境に配慮した取組を行った。

**④ 情報公開・個人情報保護に関する業務**

- ・三重県情報公開条例に基づき、「情報公開規程」を整備し、確実に対応できる体制をとっている。令和6年度に開示請求はなかった。
- ・基本協定書第12条に基づき、個人情報を適切に取り扱った。

**⑤ その他の業務**

特になし。

**(2) 施設の利用状況**

	R6年度目標	R6年度実績	達成率
みえ県民交流センター利用者数 ＜指定管理対象施設分＞（人）	63,000	39,793	63.1%
交流スペース・ミーティングルーム他（人）	-	37,943	-
イベント情報コーナー（人）	-	1,850	-

**2 利用料金の収入の実績**

令和6年度実績      965,270円

**3 管理業務に関する経費の収支状況**

(単位：円)

	収入の部		支出の部		
	R5年度	R6年度		R5年度	R6年度
指定管理料	26,483,000	29,794,000	事業費	23,374,100	27,128,801
利用料金収入	1,039,920	965,270	管理費	668,520	666,300
その他の収入	1,616,799	1,219,440	その他の支出	2,175,424	1,973,570
合計 (a)	29,139,719	31,978,710	合計 (b)	26,218,044	29,768,671
収支差額 (a)-(b)	2,921,675	2,210,039	/		

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額      63,660円

#### 4 成果目標とその実績

(1) 県が示す成果目標		
目標項目	目標値	目標に対する実績
センター来館者数 (指定管理対象施設及びイベントへの来館者)	63,000 人/年	39,793 人/年
オンラインを活用したNPOの割合	80%	84.4%
事業参加者の満足度	85%	87.9%

  

(2) 指定管理者の成果目標		
目標項目	目標値	目標に対する実績
県民応援NPOプロジェクトにて選定された団体の伴走支援	3 団体/年	3 団体/年
企業等とNPOのマッチング件数	5 件/年	5 件/年
教育機関での市民教育の実施件数	3 件/年	5 件/年

  

今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の安心・安全を確保し、また魅力ある事業内容をめざした企画運営やセンター内の展示等の充実を図り、利用者数の成果目標達成を目指す。</li> <li>・施設利用者を対象にしたアンケートや、事業参加者のアンケートから、施設利用及び事業の満足度がより高まるよう、ニーズを把握し、必要かつ魅力的な施設運営や事業実施を行う。</li> <li>・各地の中間支援組織と連携を図り、地域のセンターとしての役割、専門性を高める。</li> <li>・ホームページやWEBマガジン、SNSによる情報発信を強化し、市民活動、国際交流の促進を目指す。</li> </ul>
---------	---

#### 5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R5	R6	
1 管理業務の実施状況	A	A	<p>(1) 施設の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な組織が入居する3階フロアの総合案内の役割を果たした。また、施設内を安心、清潔に保つために、感染拡大防止対策（手指消毒、施設や備品は利用者の利用後に消毒するなど）を実施した。</li> <li>・人目につきにくいトイレ等の場所の定期的な見回りをするなど安全面を強化し危機管理体制を整備した。</li> <li>・施設、備品を適正に管理するとともに、外部委員会が出された助言や提案、利用者アンケートの実施を通して出された意見や提案をもとにサービスや管理方法を改善した。</li> </ul> <p>(2) 市民活動及び国際化に関する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回県民応援NPOプロジェクトを実施し、採択された3団体の取組の伴走支援を行った。</li> <li>・協創シンポジウムでは、県内NPO35 団体が集まり、各団体の活動や課題共有を行った。</li> <li>・グレードアップセミナーでは、「これまでのNPO、これからのNPO」をテーマに今の社会状況のなかでNPOが担うべき役割と組織のあり方を学びあった。</li> <li>・国際化の推進に関しては、「多文化共生」については2回セミナーを行い、災害時における外国人住民への支援について学ぶ場、外国人住民が主体となって交流する機会となった。「グローバル市民講座」は、「平和」をテーマに国際情勢や国際NGOの取組について学び、当事者意識を育むためのセミナーを行った。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ、SNSを積極的に更新し、またWEBマガジンを（年7回）発行し、県民をはじめ、市民活動やNPOにとって有益な情報を発信した。</li> </ul> <p>（3）「みえ災害ボランティア支援センター（MVSC）」の運営に関する業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島地震の被災地支援を行うため、幹事会への出席や輪島市で支援活動をしているNPOが主催する情報共有会議に参加した。</li> <li>・ボラマッチ事業を立ち上げ、県内のNPOとともに輪島市で被災地支援活動を行った。</li> <li>・MVSCの情報担当として、みえ災害ボランティア団体バンクの広報や、登録した団体の管理や情報提供、マッチングを行った。みえ災害ボランティア団体バンクに31団体が登録した。</li> <li>・情報担当として、WEB上やチラシ等での情報提供や三重県内の情報共有会議を行った。</li> </ul>
2 施設の利用状況	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターの来館者は39,793人であり、令和5年度（34,394人）に比べ増加傾向にはあるが、目標値には至っていない。</li> <li>・利用団体数は延べ2,515団体と令和5年度（2,509団体）より増加した。</li> <li>・ホームページ（団体情報サイト、WEBマガジン含む）のユーザーアクセス数は12,913件であった。</li> <li>・コーヒーマッチがNPOへの寄付につながり、利用者サービスと市民活動団体支援の両立を図るコーヒーマッチの取組を実施した。</li> </ul>
3 成果目標およびその実績	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター来館者は39,793人であり、目標値63,000人の63.1%である。</li> <li>・事業参加者の満足度は、85%以上の成果目標に対して87.9%であった。</li> <li>・オンラインを活用したNPOの割合は、80%以上の成果目標に対して84.4%であった。</li> <li>・県民応援NPOプロジェクトの伴走支援を3団体（目標値3団体）行った。</li> <li>・企業等とNPOのマッチングは5件（目標値5件）行った。</li> <li>・教育機関での市民教育の実施は5件（目標値3件）行った。</li> </ul>

※評価の項目「1」の評価：

- 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
- 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
- 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」、「3」の評価：

- 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」 → 当初の目標を達成している。
- 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
- 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

(1) 成果目標に対する達成度

成果目標について、「センター来館者数」は目標を達成できなかったが、「オンラインを活用したNPOの割合」、「事業参加者の満足度」、「県民応援NPOプロジェクトにて選定された団体の伴走支援」、「企業とNPOのマッチング」、「教育機関での市民教育の実施」においては、目標を達成できた。

(2) 残されている課題

- ・多様化、複雑化する社会の諸課題の解決、改善のために活動をしている地域の市民活動やNPOに求められる情報や専門性を提供すること、地域で活動をしている市民活動やNPOなどを支援している地域の間支援組織の基盤・機能の強化を支援していくことが必要である。
- ・県民に市民活動やNPO、センターの事業を知っていただき、参加いただくための情報基盤を強化することが求められる。

(3) 翌年度に取り組むべき成果目標の設定

成果目標の達成ができるよう、引き続き、社会ニーズ、利用者ニーズを把握し取組を進める。

(4) その他

(県民ニーズの把握)

- ・セミナー等事業参加者へのアンケートや施設利用者へのアンケートを行い、その結果を施設管理や事業運営に活かした。また外部委員会での業務に関する助言提案を反映した。

(業務執行体制の整備)

- ・多様な世代の職員を雇用し、有する情報やコミュニケーションツールの違いといったそれぞれの経験や世代による特質を活かして事業を企画し実施した。

(施設の適正な維持管理の実施)

- ・快適で安全・安心な利用環境の提供、施設の適正な維持管理に努めた。今後も地域の拠点として、より一層利用しやすい施設づくりに努める。